

基本理念を踏まえた「5つの基本方針」とそれぞれの方針のポイント

「いつまでも自分らしく安心して暮らせるむら明日香」

基本方針

方針のポイント

(1)

在宅医療・介護の充実

- あらゆる人が適切な在宅ケアを受けられる環境整備
- 在宅での療養、看取りを支える医療、看護、介護のサービス提供体制の充実
- 村内外の事業所や多職種の専門的なサポート、ICTの活用等連携体制の構築
- 家族介護者の負担を支える取り組み
- 最期まで自分らしい人生・生活を過ごすことを支える意思決定等の支援

(2)

地域リハビリテーションの促進

- 予防から回復期、生活期、終末期まで多様なニーズに対応したリハビリテーションの提供
- フレイル予防活動の充実
- リハビリテーションの必要性、効果等の情報発信
- 日常生活のなかで気軽に、楽しくリハビリテーションに取り組める環境整備
- 多職種や関係機関との連携促進

(3)

日常生活支援の充実

- 移動支援等、介護保険サービス等の制度以外を含めた生活を支える仕組みづくり
- 地域での見守り活動の促進
- あらゆる人が各種サービスにアクセスしやすくなる環境づくり
- 地域及び医療・介護・福祉関係者等の連携・情報共有の促進
- 災害時、緊急時等に対応できる体制整備

(4)

予防活動・健康づくりの推進

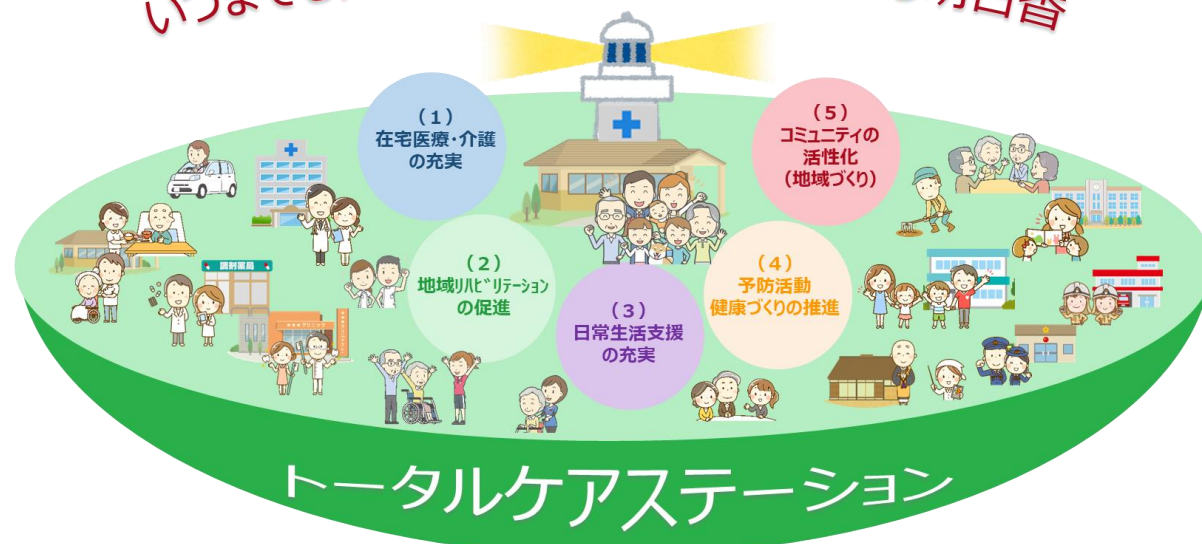
- 保健予防活動・健康づくりの啓発活動
- 自主的に健康維持、予防等に取り組める仕組みづくり
- 運動、健康づくり等のイベントを通した「地域のつながり」の強化
- 日常生活のなかで気軽に取り組み、習慣化できる仕組みづくり

(5)

コミュニティの活性化
(地域のつながり)

- 地域における多世代の交流や世代を超えた活躍の場の充実
- 子ども、高齢者、障がいのある人等、あらゆる人が気軽に集える顔が見える場の整備
- 高齢者の社会参加を支援する仕組みづくり
- 年齢を重ねても活躍できる等、生きがいを持てる地域づくり

いつまでも自分らしく安心して暮らせるむら明日香



明日香村の在宅医療と介護を含めた拠点整備 基本構想（概要版）

この基本構想は、将来明日香村において必要とされる医療・介護のあるべき姿を描き出し、進むべき方向性を指し示す指針です。

急速な高齢化の進展に伴い、要介護者が増加することを見据えて、在宅医療と介護を効率的に提供する体制と、日常生活や社会生活を効果的に支援するための体制を構築し、その拠点に必要な機能を備え、住み慣れた地域で安心した暮らし、地域の仲間と支え合える環境、豊かな自然の中であらゆる世代によりそう“トータル的なケア”を推進する拠点整備に向けた方針を策定しました。

本村では2035年に65歳以上人口が生産年齢人口を上回り、2040年にかけて85歳以上人口が増え続けるとともに、介護が必要な人、認知症高齢者、ひとり暮らしの高齢者等、今後、支援や介護を必要とする高齢者は大きく増加することが見込まれます。このことから、自分らしい生き方を見据えた準備・プランニングが求められます。

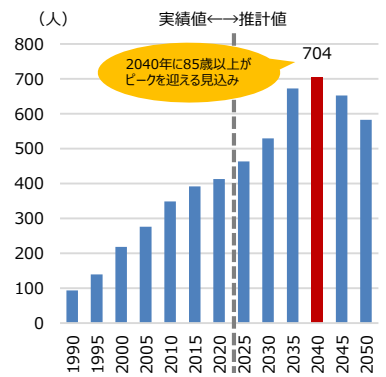
また、高齢者だけでなく、障がいのある人や子どもを含めた医療・介護ニーズの高いあらゆる人が、2040年をむかえても安心して暮らし、自分らしく最期まで生きることができる地域の実現をめざします。

明日香村の医療・介護・保健・福祉における重点課題

【1】認知症の人、終末期を迎える人、障がいのある人等の在宅療養を支えるサービスの充実

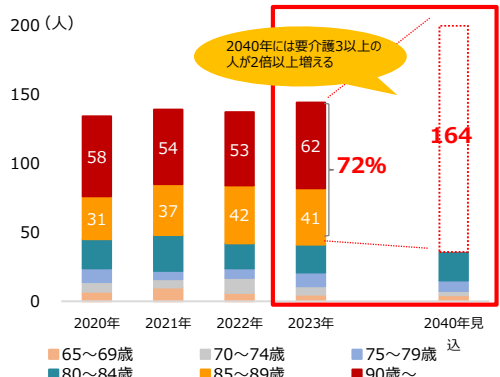
本村の高齢化率は41.1%と非常に高く、加齢とともに要介護認定率および認知症有病率は高くなることから、85歳以上人口がピークとなる2040年に向けて要介護3以上の認定者や認知症高齢者が急増することが予測されます。加齢や障がい、認知症等で介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように、療養生活を支える環境整備は大きな課題です。

【明日香村85歳以上人口将来推計】



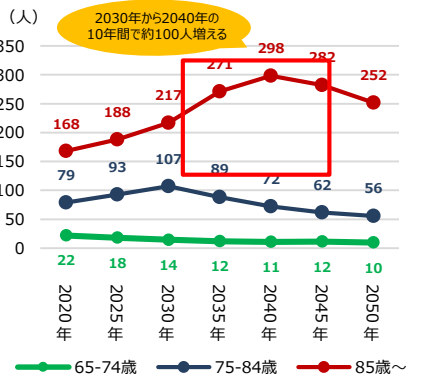
※出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【要介護3以上の年齢別認定者数及び将来見込】



※出典：厚生労働省「介護保険事業状況報告年報」、総務省「住民基本台帳人口・世帯数」、国立社会保障・人口問題研究所より要介護3以上の認定者数算出

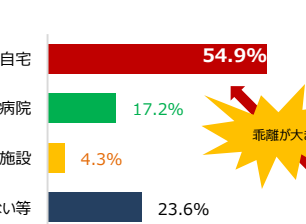
【明日香村の認知症高齢者数の将来推計】



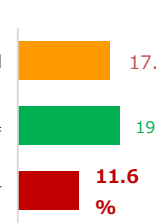
※出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する調査」より作成

2023年に村内の自立高齢者に調査した結果では、人生の最期を迎えたい場所として55%が自宅を希望していましたが、自宅死は11.6%と県内でも低く、村民のニーズと実態に乖離がみられます。その背景として、本村は8病院が所在する橿原市に隣接し、医療機関にアクセスしやすい環境にあることや、家族の負担にならないことを重視している人が多いこと等があげられます。障がいがある人も同様に、自宅で適切な医療的ケアが受けられること、同居家族等の支援のニーズが高く、当事者と介護者の両方にむけた支援が必要です。

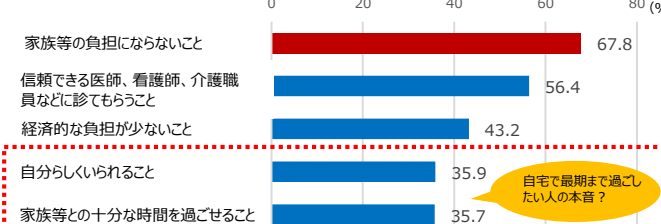
【人生の最期を迎えたい場所】



【自宅死割合】



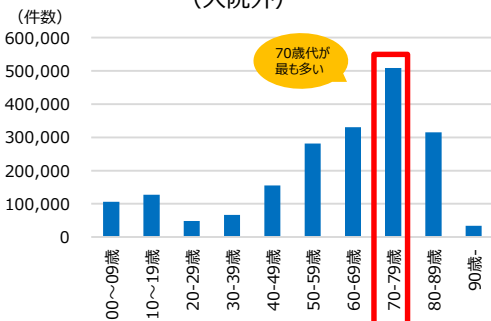
【人生の最期を迎える際に重要なこと（上位5つ）】



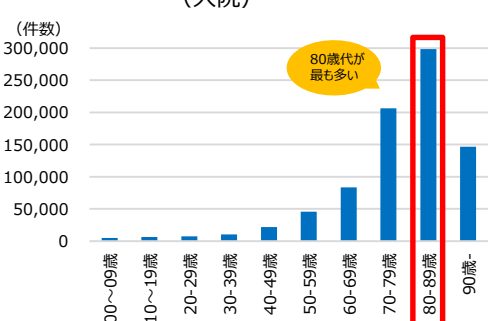
【2】多様なリハビリテーションニーズに対応する環境整備

障がいをもっていても、自分らしい人生を送れるように、それぞれの状態に応じたリハビリテーションで生活機能を維持することが重要です。85歳以上人口が増加する2040年に向けて、入院後のリハビリテーションから在宅や介護保険へのリハビリテーションに速やかに移行できる環境が求められるほか、介護予防・フレイル予防に取り組み、健康寿命の延伸を図ることも重要です。複雑化する多様なリハビリテーションのニーズに対応できる環境整備が求められています。

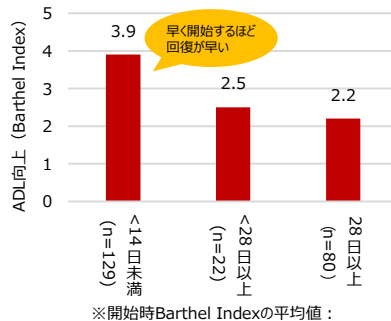
【年齢階級別リハビリテーション実施件数（入院外）】



【年齢階級別リハビリテーション実施件数（入院）】



【退院後のリハビリテーション開始までの期間別の機能回復の程度】

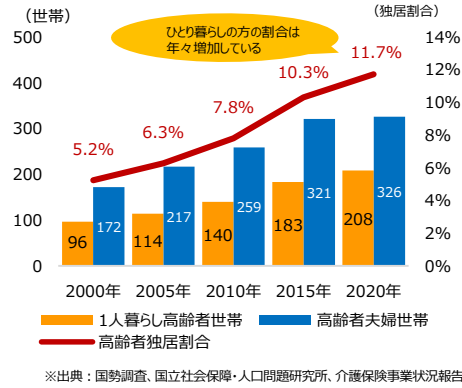


※開始時Barthel Indexの平均値：※出典：社会保障審議会介護給付費分科会（第219回）

【3】地域での暮らしを支える仕組みづくり

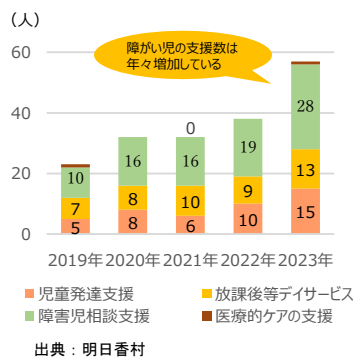
本村のひとり暮らし高齢者世帯の割合は2025～2030年まで年々増加傾向にあります。村民を対象に実施したアンケート調査では、ひとり暮らしや認知機能が低下してきたときの生活に不安を感じている人が多くいることがうかがわれます。障がい児相談支援も年々増加しており、子どもを含む障がいがある人や高齢者等あらゆる人が安心して地域で生活するために、災害時や緊急時の対応も見据えた、医療・介護関係者等の連携や情報共有の促進等、地域での暮らしを支える仕組みづくりが必要となります。

【明日香村 高齢者世帯の状況】



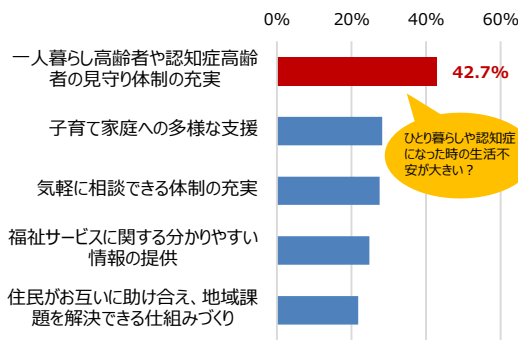
※出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、介護保険事業状況報告

【明日香村 サービス別障がい児支援実人数の推移】



出典：明日香村

【これからの明日香村の地域福祉計画で重点にすべきもの】（地域福祉計画・地域福祉活動計画中間評価報告書）上位5つ



ひとり暮らしや認知症になった時の生活不安が大きい？

【4】介護予防・健康づくりの充実

いつまでも元気に暮らし続けるためには、医療・介護を必要となる前に予防や健康づくりが必要となります。すでに取り組まれている保健事業や介護予防事業の充実化を図るとともに、多職種協働による取り組みの質の向上や、これらの予防活動に参加しやすい環境づくりが必要です。予防・健康づくりを習慣化する啓発や環境、支援も課題です。

【5】地域で支え合い、生きがいをもって活躍できる環境づくり

子どもから高齢者、障がいのある人等を含め、地域で支え合う地域コミュニティの充実を図る必要があります。地域コミュニティの活性化は、ひとり暮らし高齢者や認知症の人の見守り機能も期待できます。高齢化や人口の減少が進むなか、地域住民が支え合い、互いに協力し合う等の関心を高め、誰もが気軽に参加できる地域サロン等の通いの場、居場所づくり、地域コミュニティが必要となります。

明日香村の目指すべき医療・介護・保健・福祉の姿（基本理念）

「いつまでも自分らしく安心して暮らせるむら明日香」

「住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく安心して暮らしていくこと」が多くの村民の願いであり、本村が目指すべき姿です。あらゆる人が、自分らしく最期まで生きることができる地域を実現するためには、医療・介護・保健・福祉の分野が連携し、インフォーマルサービスや社会参加の場を充実する等、自分らしく暮らせるための複数の選択肢を提供するとともに、各種の支援が切れ目なく提供される、トータル的なケアの拠点「トータルケアステーション」の整備が必要となります。

ここでいうトータルケアステーションとは、医療・介護・保健・福祉の各種サービスを「包括的につなぐ役割を担う拠点」であり、村民が状態像によって必要とするサービスにアクセスしやすくなるための拠点をイメージした名称です。

灯台が船舶の安全な航行を目指す光を発するように、トータルケアステーションが“村民の日々の暮らしや心に安心をもたらす灯り”、“自分らしい生き方を選択できる灯り”、“支え合う人や情報が集まり多様なサービスにつながる灯り”、“生きがいをもって社会参加でき地域の担い手につながる灯り”となり、あらゆる人が「いつまでも自分らしく安心して暮らせるむら明日香」を目指します。

